



令和7年度 果樹情報 第10号

(令和7年8月7日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (7月後半、果樹研究所)

平均気温は、第4半旬が27.6℃で平年より4.0℃高く、第5半旬が30.0℃で平年より5.6℃高く、第6半旬が28.9℃で平年より3.5℃高く経過しました。

この期間の降水量は0.5mmで平年比0.8%と平年よりかなり少なくなりました。日照時間は147.4時間で平年比150%と平年よりかなり多くなりました。

2 土壌水分 (7月31日現在、果樹研究所)

7月31日時点の土壌水分(pF値:果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)は、深さ20cmから深さ60cmまで全て2.9となっており、乾燥状態です(図1)。

(深さ20cmは6月21~30日、7月7~8日までデータ欠損)

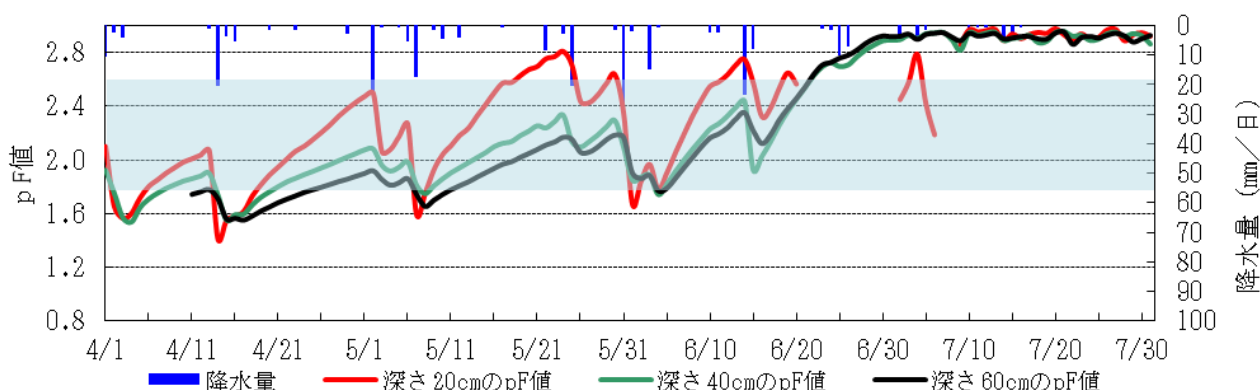


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (8月1日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が61.7mm(平年比98%)、側径が61.5mm(平年比109%)と平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年並となっています。

イ 新梢生長

満開後100日における「あかつき」の新梢長は20.8cm(平年比149%)とかなり長く、展葉数は18.3枚(平年比116%)と多く、葉色は平年よりやや低くなりました。「ゆうぞら」の新梢長は28.7cm(平年比182%)とかなり長く、展葉数は21.7枚(平年比142%)とかなり多く、葉色は平年よりやや低くなりました。新梢停止率は「あかつき」が95.0%で平年よりやや高く、「ゆうぞら」が90.0%で平年並でした(表1)。

ウ 収穫状況

「暁星」の収穫盛期は7月18日で平年より7日早く、昨年より8日遅くなりました。

果実の大きさは198gで平年より小さく、糖度は14.2°Brixで平年よりやや高くなりました。

「ふくあかり」の収穫盛期は7月24日で平年より3日早く、昨年より9日遅くなりました。

果実の大きさは302gで平年より大きく、糖度は15.8°Brixで平年よりかなり高くなりました。

「あかつき」の収穫始めは7月25日で平年より6日早くなりました(表2)。

表1 ももの新梢伸長（満開後 100 日）

品種	新梢長(cm)			展葉数			葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	20.8	14.0	149	18.3	15.8	116	43.0	45.5	95	95.0	87.1	109
ゆうぞら	28.7	15.8	182	21.7	15.3	142	43.1	45.7	94	90.0	92.8	97

注) 平年は、1996～2020 年の平均値

表2 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/ 6	6/28	7/ 4	7/ 9	7/ 2	7/ 7	7/13	7/ 4	316	264	303	13.0	11.8	12.7
日川白鳳	7/ 3	7/13	7/ 1	7/ 6	7/16	7/ 3	7/10	7/20	7/ 4	251	236	211	13.3	11.0	12.8
暁 星	7/15	7/21	7/ 8	7/18	7/25	7/10	7/24	7/29	7/11	198	221	211	14.2	13.0	14.0
ふくあかり	7/18	7/21	7/12	7/24	7/27	7/15	7/28	7/31	7/16	302	266	306	15.8	13.0	12.8
あかつき	7/25	7/31	7/19	未	8/ 4	7/22	未	8/ 9	7/29	未	269	343	未	13.0	13.2

注) 平年値は、1991～2020 年（「はつひめ」「ふくあかり」は 2009 年～2020 年）の平均

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が 53.8 mm（平年比 95%）、横径が 69.6 mm（平年比 100%）と平年並、「豊水」は縦径が 58.7 mm（平年比 104%）、横径が 67.3 mm（平年比 107%）と平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「幸水」は平年より小さく、「豊水」は平年並です。

イ 新梢生長

満開後 90 日における「豊水」の予備枝新梢長は 111.5 cm（平年比 102%）と平年並、不定芽新梢長は 85.7 cm（平年比 93%）とやや短くなっています。予備枝新梢の葉枚数は 32.3 枚（平年比 110%）と平年より多くなっています。予備枝新梢停止率及び不定芽新梢伸長停止率は、ともに 100%でした。

表3 なしの満開後 90 日における新梢生長

品種	予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
豊水	111.5	109.4	102	85.7	92.6	93	32.3	29.4	110

品種	予備枝新梢停止率(%)			不定芽新梢伸長停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
豊水	100	98.4	102	100	96.3	104

注) 平年値：「豊水」の新梢長は 1991～2020 年、葉枚数は 1998～2020 年の平均値

ウ 裂果発生状況

「幸水」の裂果発生率は 0.3%（平年 2.7%（2001～2020 年の平均値））で平年より低くなりました。

エ 成熟状況

満開後 100 日ごろにおける「幸水」の成熟状況は、果実硬度が 14.3 ポンドで平年より高く、糖度が 11.5° Brix で平年より高く、果皮中クロロフィル含量が 16.6 μg/cm² で平年より多くなっています（図 2、3、4、表 4）。

果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は、平年値をやや上回っています（図 5）。

オ 生育予測

8 月 1 日現在の DVR モデルによる「幸水」の発育予測では、収穫盛期は 8 月 22 日ごろで平年

より 7 日早い見込みです。

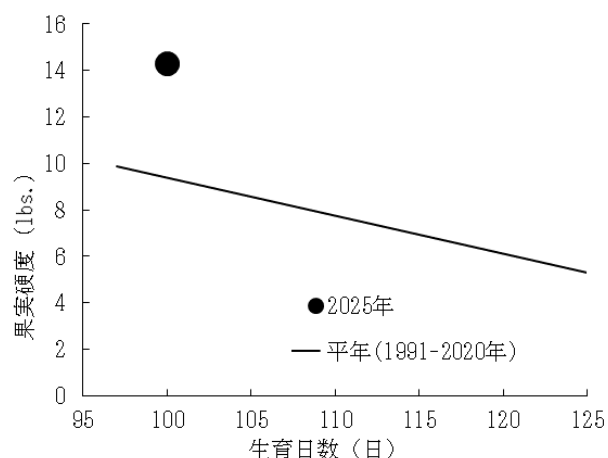


図2 「幸水」の果実硬度の推移

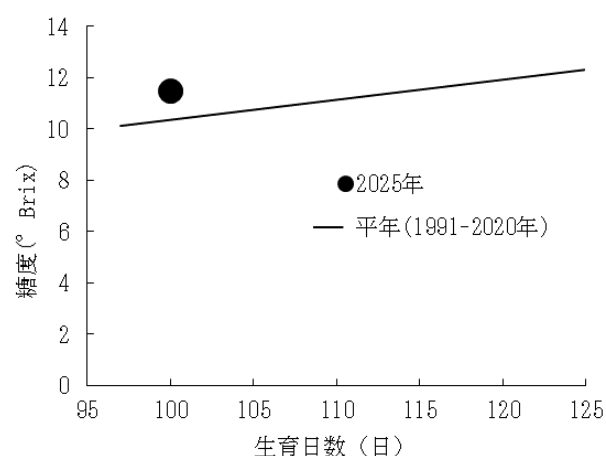


図3 「幸水」の糖度の推移

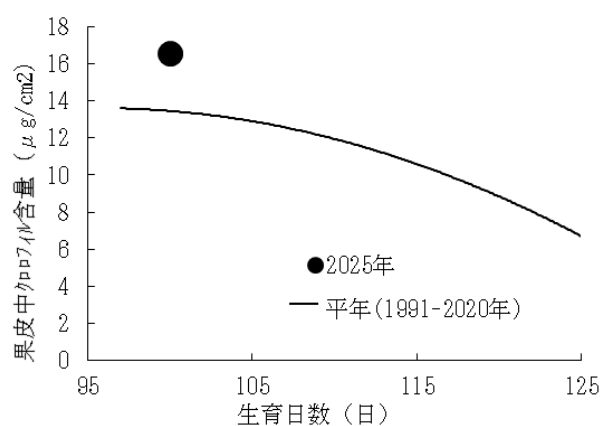


図4 「幸水」の果皮中クロフィル含量の推移

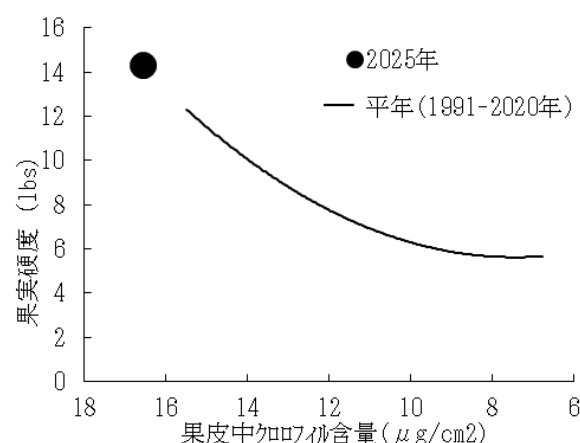


図5 「幸水」の果皮中クロフィル含量と硬度の推移

表4 なし「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			糖度(° Brix)			果皮中クロロフィル含量 ($\mu\text{g}/\text{cm}^2$)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
100	14.3	9.7	8.4	1.1	1.4	1.3	11.5	10.4	11.1	16.6	13.5	12.4

注) 平年値は、1991～2020 年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 65.1mm (平年比 96%)、横径が 75.9mm (平年比 98%) と平年並、「ふじ」は縦径が 56.2mm (平年比 93%)、横径が 60.8mm (平年比 91%) と平年よりやや小さい状況です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年より小さい状況です。

イ 成熟状況

満開後 89 日 (7 月 23 日) における「つがる」の成熟状況は、硬度が 17.8 ポンド、デンプン指数は 1.0、糖度は 10.4° Brix、リンゴ酸は 0.35g/100ml となっています (図 6、7)。

満開後日数での比較では、果皮中アントシアニン含量が平年より低く、果皮中クロロフィル含量は平年より高く推移しています (図 8、9)。

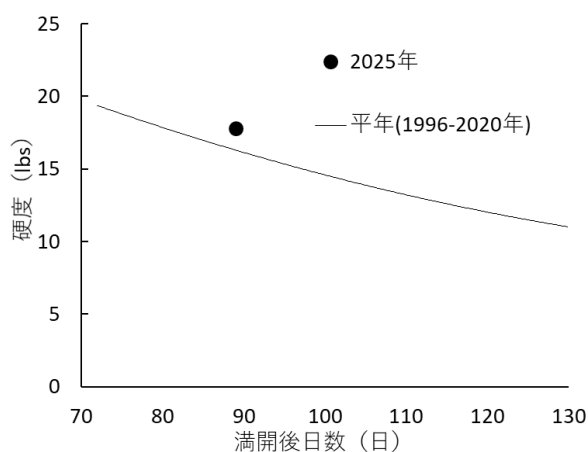


図6 「つがる」の果実硬度の推移

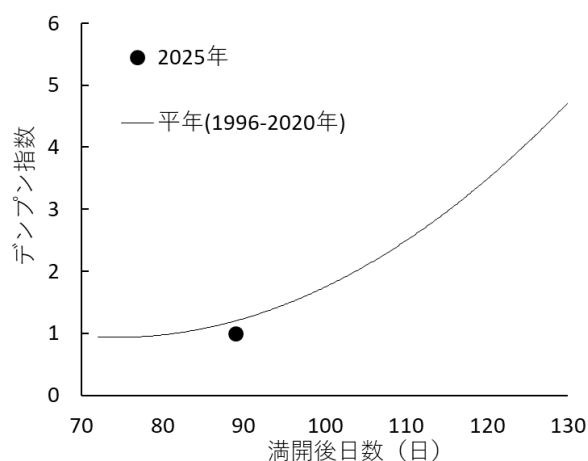


図7 「つがる」のデンプン指数の推移

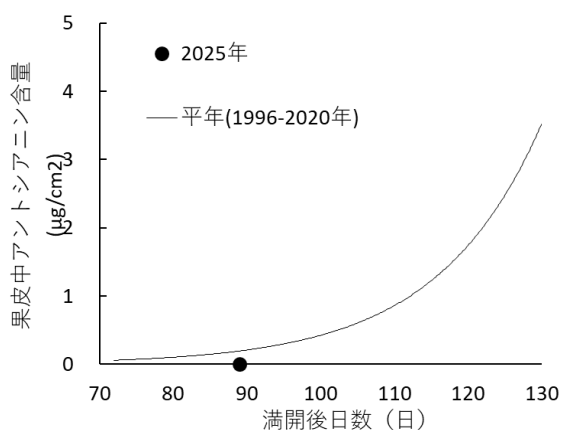


図8 「つがる」の果皮中アスコルビン酸含量の推移

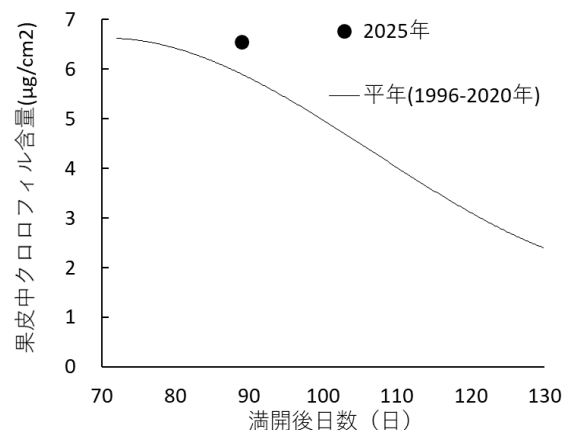


図9 「つがる」の果皮中クロロフィル含量の推移

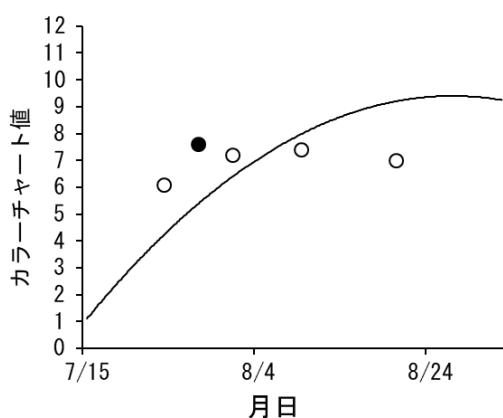
(4) ぶどう

ア 成熟状況

満開後 50 日（7 月 28 日）における「巨峰」の成熟状況は、果皮色が 7.6、糖度が 16.3° Brix、酒石酸含量が 0.94g/100ml、糖酸比が 17.3 となっています（図 10～13）。

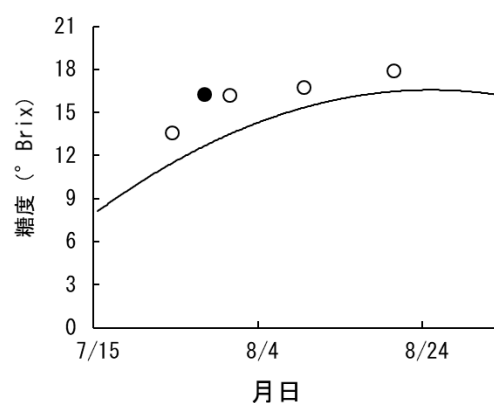
暦日で比較すると、平年より糖度が高く、酒石酸含量は低い傾向です。

「あづましずく」の 7 月 28 日における成熟状況は、短梢栽培（満開後 50 日）で糖度が 17.6° Brix、酒石酸含量が 0.66g/100ml、長梢栽培（満開後 51 日）で糖度が 19.5° Brix、酒石酸含量が 0.57g/100ml でした（表 5）。



○ 2024年 ● 2025年 — 平年 (2006-2023年)

図 10 「巨峰」の果皮色の推移



○ 2024年 ● 2025年 — 平年 (2006-2023年)

図 11 「巨峰」の糖度の推移

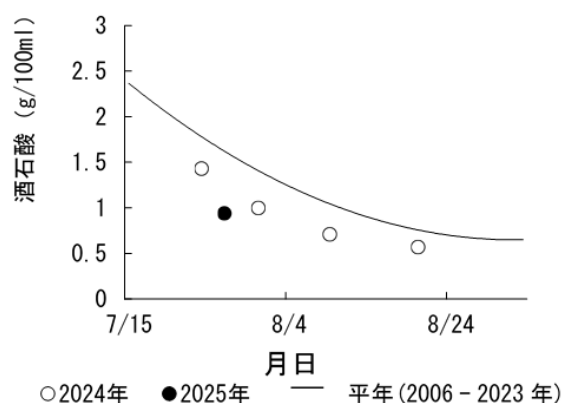


図 12 「巨峰」の酒石酸含量の推移

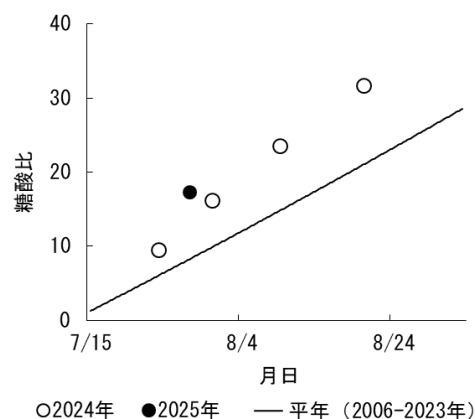


図 13 「巨峰」の糖酸比の推移

表 5 「あづましずく」の成熟状況

栽培方法	年	満開後 日数(日)	1粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	カー チャート値	糖酸比
短梢栽培	2025	50	9.6	17.6	0.66	8.6	26.7
	2024	51	13.7	16.2	0.72	8.0	22.5
	2021～ 2017平均	53	13.3	15.7	0.87	7.2	18.8
長梢栽培	2025	51	10.7	19.5	0.57	9.0	34.2
	2024	57	9.6	16.9	0.68	8.5	24.9
	2021～ 2017平均	57	13.5	16.7	0.71	8.1	25.6

4 栽培上の留意点

仙台管区气象台によると、東北南部は7月18日ごろに梅雨明けしたとみられます。本年の梅雨期の降水量（6月14日から7月18日）は、県全域で平年よりも少ない状況にあります。果樹研究所の土壤水分は乾燥状態にあることから、各園地の状態に応じて適切な対策を実施しましょう。

また、7月31日に発表された1か月予報では、今後の平均気温は高い確率70%と予想されており、特に期間の前半はかなり高くなると見込まれています。

高温・乾燥状態が続く場合には、速やかにかん水を実施しましょう。

(1) 共通

ア 乾燥傾向の園地

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

7月末時点で土壌は乾燥しており、乾燥が続く場合にはできるだけ早くかん水が必要です。ただし、ももでは収穫5～7日前以降のかん水は、糖度低下など品質に影響を及ぼす可能性があります。状況に応じてかん水の必要性やかん水量を判断しましょう。また、ぶどうでは急激な土壌水分の変化は裂果を助長する可能性があるため、同様に必要性を判断しましょう。

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

イ 高温期間中の収穫作業

果実温が高いと日持ち性が低下しますので、収穫は果実温が低い朝のうちにいきましょう。また、収穫後は直射光の当たらない涼しい場所に保管し、速やかに出荷調整を行いきましょう。

(2) もも

ア 晩生品種の収穫前管理

今後、「川中島白桃」、「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、随時、修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。有袋栽培では、適期に除袋するとともに、着色管理作業も計画的に行いましょう。

(3) なし

ア 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後 120 日ごろ（果樹研究所では 8 月 16 日）を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長するので、適正着果に努め、「幸水」並の着果量（10a 当たり 10,000 果）としましょう。

(4) りんご

ア 早生種の収穫前管理

気温の高い日が続いていることから、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょう。

イ 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてストッポール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して散布しましょう。

ウ 修正摘果

中・晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いきましょう。

(5) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、収穫時及び収穫後の調整を行う際には穂軸を持って扱うように心がけましょう。さらに、脱粒を防ぐために収穫後の果房の取り扱いは丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれたりしないように注意しましょう。

ウ 新梢管理

長梢栽培において、一定の葉数が確保された 8 月以降の摘心は、果実品質の向上と新梢の充実が期待できます。8 月上旬に伸長が続いている強い新梢は、20～25 葉程度を目安に摘心しましょう。摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に間引きを行います。本数は必要最小限にとどめるように注意しましょう。

また、副梢の摘心も同時に行い、摘心後に再発生する副梢は 2～3 葉残して摘心しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

高温が続いています。薬害発生を防止するため、薬剤散布は、高温時を避けて早朝または夕方に実施しましょう。また、急な雷雨に備えて気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病、炭疽病

褐斑病の発生ほ場割合は、病害虫防除所による発生調査において、中通りで平年よりやや高い状況でした（令和7年7月30日付け病害虫防除情報）。本病は梅雨期以降も二次感染を繰り返し被害が拡大するため、本病の発生が多い場合は防除間隔が空かないよう降雨前の防除を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

炭疽病は、発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病が発生しやすい黄色系品種や紅玉などでは、薬剤防除のみでは防除効果が不十分であるため、伝染源となる罹病果実の除去を徹底しましょう。

薬剤防除は、両病害ともに8月上中旬頃にQoI剤（ストロビードライフロアブルを3,000倍またはフリントフロアブル25を3,000倍）を使用します。ただし、QoI剤は薬剤耐性菌が発生しやすいため連用を避け、使用回数には十分注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

イ モモ灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病害虫防除指針参照）のいずれかを選択し、使用濃度、収穫前日数、使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、除袋後に間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、第4世代成虫の誘殺盛期は8月2半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は8月3半旬ごろと推定されます（表6）。

本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

病害虫防除所による7月上旬の発生調査では、一部地域で本種によるモモ新梢の芯折れ被害発生ほ場割合が平年より高く、中発生や多発生のほ場が確認されているため、特に注意しましょう（令和7年7月30日付け令和7年度病害虫発生予察情報発生予報第6号）。

第3世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、8月1半旬ごろと予測され、第4世代幼虫の防除適期は、8月2半旬ごろと推定されます（表6）。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守しましょう。

ウ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上旬から中旬ごろ、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中旬ごろから下旬ごろとなっています。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行いましょう。

エ ハダニ類

病害虫防除所の調査による発生ほ場割合は、平年より高い状況です（7月30日付け令和7年度病害虫発生予察情報発生予察報第6号）。高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

オ カメムシ類

病害虫防除所のフェロモントラップ調査におけるカメムシの誘殺数は、平年よりも多い傾向にあります。飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

表6 果樹研究所における防除時期の推定（令和7年7月31日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月7日	8月11日	8月5日	8月10日
平年並	8月8日	8月11日	8月6日	8月13日
2℃低い	8月8日	8月12日	8月6日	8月14日

起算日：モモハモグリガ 第3世代誘殺盛期 7月16日（予測値）
 ナシヒメシンクイ 第2世代誘殺盛期 7月11日（予測値）
 （演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進

実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>